

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和元年 8月 8日

三田市議会議長 厚地 弘行 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	田中一良
		議員名	厚地弘行
派遣者氏名	厚地弘行 田中一良 北本節代 佐貫尚子 中田哲		
視 察 先	愛知県稲沢市		
調査事項 (調査目的)	稲沢市あじさいまつりについて		
日 時	令和元年 7月 24日 (水) 13:00~15:00		
視察先対応者	稲沢市 経済環境部 商工観光課 課長 足立 和繁 経済環境部 商工観光課 主幹 横井 利幸 経済環境部 商工観光課 宗宮 千晶		
添付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・あじさいまつりパンフレット ・稲沢観光ガイドマップ ・稲沢市観光ガイドブック ・稲沢市議会の概要第 ・28回あじさいまつり事業計画 (案) ・28回あじさいまつり実行委員会収支 (案) ・稲沢あじさいまつり実行委員会規約 ・稲沢市市勢要覧 		

共通資料のため他の経費者より、添付

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

調査日時	令和元年 7 月 24 日（水） 13 : 00 ~ 15 : 00
視察先	愛知県稲沢市
調査事項	稲沢市あじさいまつりについて
<p>(調査結果の概要及び所見)</p> <p>【調査結果の概要】</p> <p>平成 4 年に性海寺から市に対して庭園の無償借地の提案があり、これをきっかけに市は性海寺を歴史公園に指定。</p> <p>⇒災害などにも強いとされるあじさいを植え、観光名所として育てる計画を策定。</p> <p>年々来場者が増え『あじさいまつり』に発展。</p> <p>来場者は市内外から、まつり開催期間中に総勢 5 万 4 千人。</p> <p>このうち市内からの来場者は 26 % と、市外からの観光客の呼び込みに成功している。</p> <p>来場者が増えるたびに近隣住民との交通トラブルが増えているが、駅からのシャトルバスなどを出すなどの対策を講じてきている。</p> <p>写真コンテストを行い、最優秀作品は次年度のパンフレットやポスターに掲載するなど参加者のモチベーションを高める工夫を凝らしている。</p> <p>子ども向け、ファミリー向けのイベントなどをメイン会場で開催するも、来場者の多くは 70 歳代以上の高齢者となっている。</p> <p>また、来場者は年々増加傾向にあるものの、駐車場を無料開放する上に、入場料なども取っておらず、財政面では市からの補助金に頼っているところが大きいという説明があった。</p>	

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

【所見】三田市のオープンガーデンも歴史を重ね近隣の市民にもある程度知られる存在となったが、少しマンネリ感もあり稲沢市の「あじさいまつり」を視察した。稲沢市では他にも梅まつり、桜まつり、銀杏まつりなど年間を通じて様々なイベントが行われている。特に有名で多くの人を引き付けているのが裸まつりであるということである。あじさいまつりについてはその経緯から性海寺で行われており実行委員長は寺の住職である。名誉会長、顧問には市長と議員が入る。委員には商工会理事、観光協会理事など市内各種団体が加わる。主要団体が加わることで規模は大きくなる。三田のまちなみガーデンショーとは異なる。稲沢のあじさいまつりには市外からの見学も多く5万人は超えるという。オープンガーデンをさらに大きくするには組織を大きくすることも必要かもしれない。

三田まちなみガーデンショーとの違いで言えば、期間の長さ、テレビ・新聞社等への売り込み、写真コンテスト、文化財特別展示があげられる。写真コンテストとテレビ・新聞社への売り込みは三田でも取り入れるべきこととして参考になった。文化財特別展示はあじさいまつりの会場にある寺の文化財を展示しているという趣旨にとどまる。

課題は来場者の駐車場確保と市の予算の考え方がある。何事もイベントをする際には駐車場と予算は大きな課題である。稲沢あじさいまつりの市の予算は350万円であり運営費のほとんどを賄う。担当職員はイベント全体としての収入をつくり、収入と支出の差を軽くすべきと心配されているが、今のところ財源について市民などからの意見、異議はでていない。

「花のまち三田」としての魅力向上をさらに検討していきたい。また稲沢市は年間のイベント開催が整理されている。三田市には四季につうじた魅力があるので、一連の発信も必要であると思う。

:(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和元年 8月 8日

三田市議会議長 厚地 弘行 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	田中一良
		議員名	厚地 弘行
派遣者氏名		厚地弘行 田中一良 北本節代 佐貫尚子 中田哲	
視 察 先		愛知県一宮市	
調査事項 (調査目的)		自動運転の取り組みについて	
日 時		令和元年 7月 25日 (木) 10時 00分～11時 30分	
視察先対応者		一宮市 議会事務局 次 長 山田均 総合政策部 政策課 課長補佐 野村秀樹 総合政策部 政策課 主 査 野末朋代	
添付資料		・自動運転の取り組みについて ・一宮市市勢要覧 ・一宮市議会概要 ・議会だより138 ・一宮市観光ガイドマップ } 他の派遣者より 添付	

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

調査日時	令和元年 7 月 25 日 (木) 10 時 00 分～11 時 30 分
	視 察 先 愛知県一宮市
	調査事項 自動運転の取り組みについて
	<p>(調査結果の概要及び所見)</p> <p>【調査結果の概要】</p> <p>★自動運転とは</p> <p>高精度 3 次元地図と自動運転ソフトウェアにより自車位置や周囲環境を認識し、自動運転の『目』であるカメラやセンサー等を使って障害物を検知する仕組み。</p> <p>○社会的効果⇒ 1. 利用者の利便性向上。 2. 交通事故減少し安全性高まる。</p> <p>3. 最適な走行による交通流の円滑化、渋滞緩和。</p> <p>○経済的効果⇒ 1. 不要の加減速の低減、渋滞緩和による燃費向上や CO2 削減。</p> <p>2. 自動走行車を活用した新たなビジネスモデルの創出。</p> <p>★愛知県の動き</p> <p>現在の法律では運転者が乗車しない車両が行動を走ることが想定されていない。</p> <p>⇒『近未来技術実証特区』への提案 規制を緩和し、自動走行車両の実証可能に。</p> <p>⇒国家戦略特区に区域指定。</p> <p>第一段階 運転席にドライバーを座らせた状態での実験。(遠隔監視、遠隔操作)</p> <p>第二段階 無人走行車に対する社会的受容性の評価等。(周囲の理解が不可欠)</p> <p>第三段階 無人走行車を活用した新旅客、配送サービスの検証。</p> <p>技術的には、ほぼ遠隔操作なしで目的地まで到着できるところまで来ているが、細かな運転技術や、緊急停止した際の復旧作業など、遠隔監視員による遠隔操作が当面の間は、必要となるという説明があった。</p>

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

【所見】一宮市は28年度と30年度の2回にわたり車の自動運転の実証実験を行っている。この実証実験は国から愛知県に託されたもので、実験のいくつかの会場の一つとして一宮市が選ばれたと最初に説明があった。

実験に試乗した市民の声からは「スムーズな発信と停止だった」「人が運転しているみたい。生き物が動いているよう。」「小さい障害物にも反応していて驚いた」など概ね好感な感想が語られている。

市民の移動手段の課題をもつ三田市として大変興味深い説明をしていただいた。技術面はどこまで進んでいて、実用化はいつかということであるが、もちろん一宮市として明確な回答ではないが、実験を立ち会った見地からお聞かせいただけた。「自動運転のレベル3」はすべての運転を自動で行うが緊急時には運転者が行うというものである。「レベル4」は無人車である。実証実験では運転者は同乗せず遠隔操作による実験を行っている。発信停止、右左折や物体への検知には問題がなく走行している。技術的課題として、道路側面に建物や樹木など物体のない場合には何も検知できず車が走行位置を認識することが難しいことや、障害物にあたって止まった後の対処に課題があったと聞いた。具体的には対面のトラック車との対向で道幅がなく、対面通行できなかったことがあったと説明された。また雨や雪も障害物と認識するのでそれらも課題とする。

31年度は愛知県内でAIによる実験、駐車場内での運搬実験、路線バスの遠隔操作実験を行う予定である。さらに2030年には国内100か所以上で実証実験を行う予定である。

次に技術面を除く課題として、保険や法律の整備が急がれるのではないか。また実用化についてはコストの低減も必要と思われる。最後に実験会場を提供した一宮市の役割として看板の設置、市民への理解と試乗者の募集選択があった。ニュースなどで5～6年先には実用化できるものと期待していたが、説明を通して自動運転の実用化にはまだ10年くらいはかかりそうである。なので、その間の市民の移動も引き続き急がれる課題である。効果的なバス路線の創設、魅力ある公共交通施策と利用者理解、地域協力によるお出かけサポートの推進など進めていかねなければならないと強く感じた。